

ひさかたの  
（柿本人麻呂）

解説 天の香具山に登り春を実感した詩。

ひさかたの 天の 香具山 この 夕べ

語釈 ※ひさかたⅡ枕詞。天空に関係のある「天」「雨」「空」「月」「日」「昼」「雲」「光」などに、また、「都」にかかる。語義・かかる理由未詳 ※天の香具山Ⅱ奈良県橿原市東部にある山。海拔一四八メートル。高天原たかまのほらにあった山が、地上に降ったとの伝説から、古来、神聖視され天の香具山と呼ばれる。

霞 たなびく 春 立つらしも

通釈 久しぶりに夕べに天の香具山にやってきた。天の香具山は霞がたなびいているので、やっと春になってきた実感がする。